

平成 27 年度調査研究活動実績報告書

県民の会

会長 中内 桂郎

本年度の政務調査研究に関する主な活動の実施状況は以下のとおりである。

- 1 「地域での暮らしを支える仕組みづくりと定住を支える経済条件～島根県の取組みを中心に」と「小規模な地域自治組織とはどのようなものか」について
- 2 小さな拠点としての施設見学
- 3 鳥取県バイシクルタウン構想について
- 4 鳥取県立図書館における学校図書館支援センター、「読みメン」事業、課題解決型図書館としての施設運営の在り方について。
- 5 人と防災未来センターの施設見学及び照本研究員からの「孤立集落対策」「地域復興における支援対策」のあり方などについて
- 6 中四国農政局にて農業農村整備事業の予算確保、薬用植物振興支援、GI(地理表示保護制度)について協議・意見交換
- 7 公共交通、コミュニティバスについての調査研究
- 8 国土交通省四国地方整備局に対する要望活動
- 9 LCCの高知県への導入等に関する調査研究
- 10 アウトドア用品会社「スノーピーク社」との連携等に関する調査研究
- 11 薬用植物に関する調査研究
- 12 国土交通省・環境省・経済産業省・資源エネルギー庁・水産庁への要望活動
- 13 福島原発の凍土工法による凍土遮水壁工事について
- 14 宿毛バイオマス発電所についての調査
- 15 岩手県・宮城県の震災後の復興状況等についての調査

中山間地域で特に感じたことは、足腰が弱いように感じた。

老いた人たちの集団が主である地域ほど残念である。行政側にしても、もっと力を入れて老人を大切にしてほしいと願う。それぞれの自治体にも苦悩する問題はあると思うが、目先を変えてしっかりとした行政課題に取り組んでほしい。

産業振興の問題は上辺だけじゃないかと思う節もある。統計的には問題は無い様に思うが、果たして数字だけの問題ではない、1人の人が着実に生きる人間として頑張っている姿こそが、私は大切だと思う。しかし、県が取り上げている課題に対しては一応に推進していると考えるか、今後には、もっと県と地域との格差があることを確認し、今後積極的な支援体制をしていく必要があるように思った。

南海トラフ地震対策は私の上すべりの感じであるが、現段階では上々のようである。県下全般に渡って幅広く活動に力をいれているように強く感じた。

最後に教育問題であるが、学テにしても小学生は良く頑張っているが、中学生はまだまだと云っている現状は残念である。小学生時代にしっかりと問題意識を解決してないから、中学生になって問題が発するものと考ええる。

以上のことを思い感じるのは私一人ではないと思うが、今度は問題解決のため知恵を出し合い、高知県はすばらしいといえる県になるように頑張りたいと思うし、その為の努力をしていく方針である。